

第 5 回 可児市地域公共交通協議会 議事要点録 概要

【日 時】 平成 21 年 5 月 27 日 (水) 午後 1 時 30 分 ~ 午後 3 時 30 分

【場 所】 可児市総合会館 3 階第 2 会議室

【出席者】 協議会委員 14 人、代理委員 4 人、欠席委員 1 人、事務局 3 人

1 会長あいさつ

【あいさつ要旨】

地域公共交通協議会は前回は 3 月 27 日に開催した。デマンド運行の実証実験についてデマンド運行検討会で 2 回検討していただいた。本日はその報告を受け、協議する。

【その他】

会長のあいさつの後、今回の会議録の議事録署名者として林則夫委員と舟橋敏彦委員の指名があった。また、今回新たに委員となった杉山委員と佐々木委員に委嘱状を交付した。

2 東鉄路線バス(久々利線の大萱経由)の退出について

資料 1、参考資料に基づき事務局から説明し、岐阜県生活交通確保に関する協議会で東鉄路線バス(久々利線の大萱経由)の退出の協議を省略することに対する異議はなかった。付帯意見として子どもの通学手段を確保してほしい旨の意見があった。

(主な意見)

【発言者】 委員 事務局

利用が少ないため廃止するという事業者の事情も分かるが、子どもの通学手段は守っていただきたい。

東明小学校への通学距離はどのくらいあるか。

大平から酒井のバス停まで乗っている。7~8 キロぐらいになる。教育委員会では、徒歩ではなく乗り合わせ等での通学手段を保護者と協議していく予定である。

3 さつきバスの改正(デマンド運行の実証実験)について

資料 2、資料 3 に基づき事務局から説明し、今回の実験は川合土田線において現在のタクシー会社の配車システムを使って 3 か月間行い、検証を行うこととなった。

(主な意見)

【発言者】 委員 事務局

パソコン(PC)システムの利用について

前橋市の PC システムを使えば、事務局案に予想される問題(バス停での待ち時間、予約受付作業の負担、市全体への展開不可、集計作業の手間)を解決できる。

事務局案で実験を行い、専用の IT システムを一部で使ったらどうかという提案であるが、現在のタクシーのシステムと併用して、専用の IT システムを利用できるか。

運行事業者としては、現在のタクシーのシステムと専用の IT システムを使い分けることはできない。デマンド専用の IT システムに専任職員を充てることはできない。

前橋市のシステムをそのまま使って、うまくいくかどうか分からない。利用者が多ければ路線バス方式が良い。PC システムの導入は、需要と地域の交通の仕組みを見て考えるべきである。

川合土田線沿線は区域が広いわけではなく、現在の利用者も少ない。バスの動きも可児駅と可児川苑を往復するものであるので PC システムなしでできると考える。

前橋市の PC システムを委員は誰も見ていない。システムの開発者に来ていただいて可児市にとって一番良い方法について議論していただきたい。

道路運送法で規定されている地域公共交通協議会では、市民も公共交通事業者も含めて地域の交通システムをどうしていくのかを議論することが主目的である。可児市には JR、名鉄、バス、タクシーがあり、どういう仕組みが可児市にとって望ましいかの議論が進まない中で、PC システムについて議論するのはバスのメーカーや色をどうするのかを議論することと同じである。

デマンド運行の PC システムは前橋市のもの以外にも複数社ある。PC システムが必要であるかどうかは運行事業者が判断し、複数の PC システムの中からどれを選ぶのかは運行事業者であると考え。運行事業者が PC システムの説明を受けるのはありうると思うが、協議会は前橋市の PC システムを使うと決めて実験することを判断する場ではないと考える。

他の公共交通とデマンド運行について

今ある公共交通を残して使って欲しいと思う。今ある電車、バス、タクシーを補完することが 1 番だと考える。デマンドでバスやタクシーの利用者が減ってしまったらいけない。9~11 月の実験を経てから結果の検証をお願いしたい。

市全体としては利用の少ない路線を対象にデマンド運行の実験を行いながら、2~3 年かけて地域にあった運行方式を提供していく。

実験の評価について

タクシー車両にして経費が安くなり利用が増えるのは、デマンド運行の効果ではなく、タクシー車両単価が安いことによる効果である。

今回のさつきバスの改善においては、利用者に応じた車両を用いることによって結果的に経費の節減ができれば改善できたと考え、利用が増えたのであれば利便性が向上したと考える。

停留所、車両について

60 か所の停留所があるが、利用するのは 2~3 か所の停留所となるか。

利用者が多い場合は車両を大きくしてはどうか。

停留所は乗降予約のあるところだけを経由する。今回は 1 便に対してセダン型タクシーを最大 3 台運行し 15 人まで利用できる。利用者が多い場合は車両を大きくすること

を検討する。

その他

受託予定のタクシー事業者は前橋市と米原市を視察していただきたい。米原市のタクシー事業者は献身的であり、両方を見て検討していただきたい。

4 名鉄広見線対策 (新可児駅～御嵩駅)について

資料に基づき事務局から説明した後、石田委員から資料に基づく補足説明があった。

(補足説明要旨)

市町と名鉄で話し合いを続けている。担当者が参加する連絡調整会議で聞いていた2月の対策協議会の結果を、スケジュールが調ったので会社として正式に伺ったものである。

5 その他

本日の協議会では非公開部分はないことを確認し、協議会を閉会した。